

平成30年(2018年)12月のモスクワ及びサンクトペテルブルクにおける
雅楽公演及びワークショップ(説明書2(3))の実施に関する参考情報

一例として、出演者が「東京楽所」となる場合には、主に以下のような条件を確保することが期待されます。ただし、これらは今後の調整により、変更があり得ます。

1 公演関係

- (1) 照明及び舞台設置については別添資料のとおり。その他、解説等のためマイクが必要。
- (2) 舞台費（本公演2回・ワークショップ2回）
 - 楽師出演料 3, 540, 000円
 - 装束・楽器損料 1, 400, 000円
 - 舞台スタッフ・装束師・通訳・司会進行 1, 490, 000円
 - この他、現地プロデューサー謝金及び現地手配通訳（公演準備、ワークショップ・メディア対応用）を要する。
- (3) 演目（一例）
 - 1 管弦演奏
「平調の音取」, 「越天楽」, 「陪臚」
 - 2 舞楽
「萬歳楽」, 「落蹲」

2 ワークショップ関係

- レクチャー・コンサート形式で実施。終演後、打楽器の体験を企画可能。
- 舞いが舞うスペースがあれば、ステージ付きのホールでなく、フラットな会場でも実施可能。楽器紹介、音楽的特性の解説、越天楽、紫響（現代雅楽）、休憩（20分）、舞楽解説、舞楽「蘭陵王」と管方演奏「長慶子」、質疑応答の計約2時間30分を想定。
- 解説・質疑応答のためマイクが必要。

3 ロジスティクス

- 日本からの参加予定人数 計27名（団長・演出1名、プロデューサー・司会1名、楽師18名、装束師2名、舞台監督1名、舞台スタッフ2名、ディレクター1名、コーディネーター1名）
※渡航者は全27名であるが、うち3名分は計上不要。
- 渡航滞在及び輸送
 - ・ 日本国内移動
 - ・ 荷物輸送（東京都内⇄成田）トラック借り上げ2日間（往復）
 - ・ 人員交通（東京都内⇄成田）24名×往復

- ・移動は成田～モスクワ～サンクトペテルブルク～（経由地）～成田で、航空券はエコノミークラスで手配する。
- ・携行品：25個 総重量667kg（携行品リスト別添のとおり）
- ・現地での移動は、人員・荷物移動含め大型バス1台で可。
- ・現地滞在費（宿泊費（朝食込み）＋食費＋日当）
24名 × 7泊 （モスクワ19,300円, サンクト12,900円）
- ・円建てで計上されている諸経費については、銀行振り込みにより、「東京楽所」関連事業の主催団体である「創造する伝統実行委員会」口座に円建てで一括送金する。

（了）